

地の塩・世の光としてのキリスト者

ローマの哲学者プリニーに次のような言葉がある。「nil.utilius.sale.et.sole」（塩と太陽の光にまさる有益なものはない）。語呂を合わせた有名な言葉であるが、人間の生命の維持のためには、塩（sal）と光（sol）が必要不可欠なものであることをよく言い表している。山上の説教において主イエスもこの二つのたとえを用いて、この世における神の民の使命と責任を印象深く教えられた。

主はまず第1に、「あなたがたは地の塩である」と弟子たちに言われた。塩は調味料として、また防腐剤として貴重であるだけでなく、また生命を維持する栄養素として絶対不可欠のものである。塩が、他の食物の中に入れられ、混ぜられることによって、その物に味を与え、その物の腐敗を防ぎ、その物を保存していくように、キリストの教会もキリスト者も、この世に愛と平和をもたらす、この世の道徳的腐敗を防ぎ、この世に神の栄光をあらわすという大切な使命を与えられて、神によってこの世に置かれている。

その使命の大切さを教えるために、更にこう言われる、塩は塩気があり、ピリッと辛みがあるところに塩としての意味があるのであって、もし塩が塩付けを失ったとしたら、塩としてなんの価値があるだろうか。「もはや何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである」と（13節）。昔、人々は塩気を失った不純の岩塩を外に投げ出し、足で踏みつけ、いわばアスファルトのように道に敷いたという。神の民はそうあってはいけないと主は言われる。

第2に主は弟子たちに「あなたがたは世の光である」と言われた。光は人々を照らし、人々を導くためにある。光は命の源でもある。主は別の箇所です「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」と言われた（ヨハネ8：12）。この言葉によって主は、ご自身に従う者に「命の光」を約束されたが、それは彼らがキリストの栄光の反映者として、この世で輝くためであると教えられた。

創造主なる神は、昼は太陽をもって世界を照らし、夜は月星をもって闇を照らす。月星が太陽の光を反射して闇の夜を照らすように、キリストにある敬虔な信仰と愛と善行に満ちた生活は、神の存在を人々に示し、神とキリストの恵みの栄光をたたえさせる機会となる。キリスト者はこのように、この世にあって神の栄光をあらわすという大きな使命を与えられているのである（マタイ5：15～16）。

使徒パウロも光と闇のアナロジーを用いて、エフェソの信徒たちに、この世におけるキリスト者の生き方を教えて次のように言う。すなわち、あなたがたは、以前には暗闇であったが、今は光であるキリストに結ばれて、光とされた。それゆえ光の子として歩みなさい。あらゆる善意と正義と真実とは光から来る。実を結ばない暗闇の業に加わらないで、何が主に喜ばれるかをよく吟味しつつ・・・愚か者としてではなく、賢い者として、自分の生き方に細かく気を配って歩みなさい。今は悪い時代なのであるから、時をよく用いて歩きなさい、と（エフェソ5：8～16参照）。この週も光なるキリストにしっかりと結びついて生きる日々でありたいと思う。